

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.1048
2025.8.31

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
ご意見・ご要望はこちらにお寄せください

松村 としお とば めぐみ
久保 みき たけこし 連
金子 あきよ 池田 めぐみ



戦後80年

さいたま市の平和事業を前に

戦後80年の節目の年、6月議会では「終戦80年を契機に戦争や核兵器のない恒久平和の実現に向けて主導的役割を果たすことを求める意見書」が、全会一致で採択されました。

新年度は市の平和推進事業予算が993万円に増額され、市内中学生の広島平和学習派遣が実現しました。8月5～7日の2泊3日の日程で、10名の生徒が被爆80周年の広島平和祈念式に参加したほか、平和記念資料館や原爆ドームなど平和関連施設を見学、こども平和サミットや平和学習会に参加しました。昨年文教委員会で池田めぐみ市議が提案した時には「費用や引率面で課題がある」という答弁でしたが、総務局の努力で実現し、竹居教育長も引率で参加しました。昨年に続き、広島平和祈念式に参列した池田市議は、「来年以降も継続するよう働きかけていきたい」と話しました。

また、8月3日の「平和祈念講演会」では、本市で初開催の「子ども平和フォトコンテスト」の表彰式があり、子どもたちが平和を感じた瞬間の写真も展示されました。妹と愛犬が寝ている瞬間を撮影した「お昼寝」という作品をはじめ、197作品の中から選ばれた、子どもたちの感性あふれる作品の数々に、会場は笑顔で包



まれました。埼玉県原爆被害者協議会の佐伯博行さんの広島での被爆体験や、国境なき医師団の心理士、福島正樹さんが話すパレスチナの現状に、子どもたちも聞きいていました。

さいたま市は2005年に「さいたま市平和都市宣言」をしたあと、2010年2月に平和首長会議に加盟しましたが、加盟後、市長は出席していませんでした。しかし8月9日、長崎で開催された「第11回平和首長会議被爆80周年記念総会」に市長が初めて出席、平和祈念式典にも参列されました。反核運動を促進する世界の地方自治体で構成する国際機構の加盟市長として、清水市長の平和推進の姿勢を、9月議会で池田市議が質問します。

浦和大里小学校 室内プール利用開始

多くの市民や子どもたちに惜しまれながら、義務教育学校「武蔵浦和学園」建設計画のために解体されてしまった沼影市民プール。「1日も早く代替プールを！」と声が上がりました。この声に押されて市は、浦和大里小学校のプールを通年利用できる室内温水プールにして、教育活動で使わない日は市民に開放する計画を提案。この計画に沿って、浦和大里小学校のプールが改修され、8月1日から市民開放が始まりました。利用料金はこれまでと同額です。プールの底面は電動で深さを換えられる仕様。冬場の暖房や採暖室など、通年利用ができるよう設

備がつくられています。施設は新しいですが、更衣室のロッカーやプールで使用する浮具などは沼影市民プールで使っていたものです。

今後、こうした学校プールの室内温水化と市民開放は拡大されていく方向です。プールの内覧会に参加した金子市議は「今後出てくる課題については利用者や子どもたちの声を聞いて改善していくことが大切だ」と話しました。



金子あきよが現場を歩く

「放課後子ども居場所事業」の実情

現在13校でモデル実施の「放課後子ども居場所事業」。8月7日、松村としお市議とともに大谷場東小学校（南区）と中尾小学校（緑区）に実態を見に行きました。

「定員なし」で子どもを受け入れる「居場所事業」は、短期の利用もできるので、夏休みになって登録児童が増え、大谷場東は187人、中尾は154人。従来の「専用室」とともに学校の家庭科室、会議室なども利用されていますが、大きな机が固定され、広いスペースがとれません。一定時間、ドリルなどの学習をした後は、室内ゲームや読書をして過ごしていました。夏休み中は猛暑のせい



放課後子ども居場所事業の子どもたちが自分の荷物を入れています

もあって外にもほとんど出られず、体を動かしての遊びはなかなかできないそうです。これまでの放課後児童クラブのような「活動」は保障されません。「ともかくケガなく、ケンカなく…それだけを考えています」とクラブ長さんの言葉。少しでも子どもの放課後にふさわしい環境とすることを求めていかなければ、と強く思いました。

子どもも先生も悲鳴をあげている 少人数学級署名スタート集会



8月3日、与野本町コミュニティセンターで「学びと健康を保障する少人数学級を求める会」による少人数学級署名スタート集会が開催されました。金子あきよ市議が参加しました。

集会では、中学校の先生、小学校特別支援学級の先生、さわやか相談員、そして保護者などが発言。子どもはすし詰め状態、「先生は業務が多くて忙しい。なんらかの理由で傷ついたり、ハンディキャップのある子どもたちが教室にいつらくなっている」と、先生も子どもも保護者も追い詰められ苦しさを感している深刻な実態が、リアルに語られました。

こうしたなかで、誰もがよさを認めるのが少

人数学級です。「中学校でも35人学級を」「特別支援学級の定数を6人に」「市独自の施策で先生を増やして」との要求を、さいたま市議会12月定例会への請願として提出することをめざして、署名が呼びかけられました。

金子市議は「子どもが大切にされていない現場の実態が明らかになった。こうした実態を共有して、少人数学級の実現を議会でも求めている」と話しました。



インボイスの廃止を求めて 埼玉土建が会派を訪問

8月20日、市内中小業者・個人事業主のセーフティネットである民主商工会と建設業・ひとり親の方の労働組合の6団体が各会派を訪問し、党市議団では松村としお、とばめぐみの両市議が対応しました。

埼玉県議会12月定例会で「インボイス制度の廃止等を求める意見書」が可決されたことを受け、さいたま市議会にも「国に『消費税のインボイス制度見直しの意見書』の提出を求める

請願」が提出されました。日本共産党は、年収1000万円以下の免税業者に対し、赤字でも消費税の納税を義務化したこの制度は「弱い立場の小さな業者の手取りを減らし多くの廃業を生み出す」と導入から一貫して反対してきました。2023年10月に施行されたため、今年度は4カ月分納入、次年度からは1年分の納入となります。とば市議は「インボイスは逆進性が強い消費税の構造をさらに悪化させるしくみで、地元商店街や個人事業主を大変苦しめている。団体のみなさんの声を力に、さいたま市議会でも採択を求めたい」と話しました。

9月議会がはじまります

9月3日(水)から9月議会がはじまります。会期は10月17日(金)までです。代表・一般質問にはたけこし連、池田めぐみの両市議が登壇します。また決算特別委員会が開かれ、2024年度の決算審査をおこないます。質問はインターネット中継されます。日時が決まり次第、ホームページなどでお知らせしますので、ぜひ傍聴にお越しください。



たけこし連市議



池田めぐみ市議

2件の請願の紹介議員に

- 国に「消費税のインボイス制度見直しの意見書」提出を求める請願 (3民商・埼玉土建3支部)
- 生活保護を躊躇なく申請できるよう市民への広報・周知の拡充を求める請願 (さいたま市社保協)

4件の意見書(案)を提案

議会運営委員会で一致すれば、国および埼玉県に送付されます。

- 学校の業務量に見合った教職員の定数改善計画の策定および全国教員勤務実態調査を求める意見書(案)
- 消費税率見直しにおける地方財源確保を求める意見書(案)
- 最低賃金額の引き上げに当たり、中小企業への支援を求める意見書(案)
- 《埼玉県宛》県民活動総合センターの廃止撤回を求める意見書(案)

あなたの身近な市議会議員です



緑区
松村としお



桜区
久保みき



南区
金子あきよ



見沼区
とばめぐみ



中央区
たけこし連



浦和区
池田めぐみ